

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501271		
法人名	医療法人社団上田病院		
事業所名	グルーホホームあいあい		
所在地	登別市美園町4丁目23-9		
自己評価作成日	平成23年10月7日	評価結果市町村受理日	平成23年12月2日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501271&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活に変化をつけ安心して自分らしく穏やかに生活できるよう支援しています。季節毎に行事を行い春はお花見、室蘭の水族館へお弁当を持って遠足、夏は町内会の方にも参加していただいてバーベキューを行なっています。今年は蜂が多いとの事でどう狩には行けませんでしたが、ゆうゆうの入居者さんにも参加していただいてグループに分かれて対抗戦で運動会を開催しました。6月から10月にかけて毎月1度上田病院の大浴場に行っています。いつもとは違うお風呂で皆さん足を伸ばしてのんびりと入浴しています。毎月ボランティアグループの方が来てくれて踊りを披露してくれます。入居者さんも一緒に踊れるようなソーラン節や北海盆歌など必ず最後にやっていただき入居者さんも鳴る子を持って一緒に踊っています。上田病院の託児所からも毎月お誕生会や敬老の日など行事毎に訪問してくれて交流を図ってくれます。入居者さんは小さな子供たちに大喜びで握手をしたりして「可愛いね、又来てね」と話しかけています。全員ではないのですが自立している入居者さんをつれてこちらからも託児所のお買い物ごっこの時など託児所に行ってきた。職員の子供さんがピアノ演奏で来てくれて演奏に合わせて一緒に歌を唄ったりしていました。入居者さんと一緒に季節ごとの飾り付けなども行っています。筋力の低下を防ぐため階段の昇降や食材を運んでもらったり、手すりに掴まりながら足の運動行ったりと機能を低下させないようにしています。経営母体が病院なので入居者さんの急病時の診察や薬の処方調整などもすぐに出来ることや、点滴が必要となったときなどもグループホームで行なっています。入居者さんもいつもと同じ環境の中で治療出来ますので落ち着いて治療を受けています。ご家族の方にも安心していただけていると思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは地域との交流も積極的であり、町内会の各種行事への参加や、事業所独自のイベントへの地元住民が多数参加するなど、日頃からの相互交流を基盤とした取り組みの熱心さがうかがえる。またケアについても、今年から事業所内の各ユニットが、お互いに独自の目標を立て、より高いケアに取り組んでおり、介護職員の奮起が更なる高さへとケアの質を押し上げている。母体が医療機関であり、その特性を生かした医療相談が医師の参加のもと、事業所で月2回定例化しており、医療面でも手厚い体制にある。また、利用者に必要な点滴をホーム内で行うという、日常生活の重要さに配慮した、介護を側面から医療が支えるという、介護により添った医療を行っている点にも着目し、その取り組みについて大いに評価をしたい。以来6年を経過し、着実に実力を発揮している事業所であり、今後さらに地域の基幹事業所となるよう期待したい。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での生活の中で今ある機能を維持でき、自分らしい生活を送れるように毎日のミーティングやユニット会議などで話し合っています。	各ユニットごとに、理念の具体的な指針を一年間の目標として立て、理念の実証と共有に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事への参加お祭りなどはグループホームにお神輿が来てくれます。入居者さんも外へ出てお賽銭を上げたりしています。又避難訓練時に救命講習を一緒に参加してもらったりしています。廃品回収は継続して行なっています。	地域との交流は地元を中心として深められており、ホームから町内のお祭り等への参加にとどまらず、ホームの防災訓練へも地元住民が積極的に参加しており、日頃から新密な交流促進に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターの方や登別市の他のグループホームの方とも協力して認知症の講習会を開き町内会の方や家族の方などにも参加してもらっています。又運営推進会議を通し、情報を共有・収集しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行ない運営状況を報告し地域の方や、ご家族の方などと意見交換を行なっています。	町内会や民生委員、地域包括センター等の参加により、定期的に開催されており、単にホームの行事報告にならないように工夫して取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通して事業所の取り組みや実情を報告、又毎月入所状況を報告しています。	なにごとにも相談できる体制にあり、日々情報の確認等で協力的な関係性を維持している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を行い職員にも理解を求めている。身体拘束は行っていない。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	身体拘束に関するマニュアルを用意し、ホームで独自に研修を行っている。また日常的なケアで検証しあいながら、身体拘束とは無縁なケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修会で必ず取り上げている。ユニット会議などでも虐待の意味など話し合っている。また接遇委員会を設置、入居者さんに対する言葉使いや職員同士の言動にも注意を払い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を必要される方はいません。入居者の家族の方で遠方の方などこのような制度のある事を話し合ったことはあります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族の方に説明し契約時には重要事項説明書、契約書など一緒に読みあわせを行い理解、納得が得られるようにしています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などがあった場合はその旨を市役所や職員全員に知らせて検討し改善するようにしている。	色々な機会を利用活用して、利用者家族からの意見や要望の聴取に努めている。その内容について、職員全員に知らしめて共有し、解決に向けて努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者は毎月行なうユニット会議に出席し職員の意見や提案を聞き反映できるようにしている。	年に複数回、職員自身の自己評価に合わせて施設長との面談を行っており、職員からの提案を聞き入れ反映する体制に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を行い個人面談を行っている。仕事にやりがいを持ってもらえるように役割分担を決めている。資格習得の為に研修参加してもらっている。個人の実績に応じた昇給も行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では勤続年数に応じて研修会を開いている。法人外ではその都度研修に参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	胆振管内のグループホーム連絡会への参加登別グループホーム友の会や包括センター主催による事例発表会や研修会などに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時家族の方と面談を行い本人や家族の要望を聞き、入居してからは本人を観察しながら安心して生活していただけるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族や紹介してくれる包括センターの方などと連絡を取り合い家族の不安や思いを聞いている。また入居後も家族と連絡を取り合いながら良い関係ができるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や包括センターの職員の方などから話しを伺い今本人が一番必要とされている事をケアプランに反映している。その後観察を行い評価しながら対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんの思いを理解するように努め職員同士で話し合い一緒に出来る事はやってもらったりソファなどで座りながらお茶を飲んだり会話を楽しんだりしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは情報を共有できるようにコミュニケーションをとりながら信頼関係を築けるように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊は自由に行なっている。車椅子を使用している入居者さんを自宅まで連れて行き近所の方とお話しをして来た事がありました。外泊時に自宅まで送ったりする事もあります。	現在も利用者の友人が訪れており、ホームでは温かく見守り、持続できる様に援助している。また通院や買い物などの利用者の馴染みの関係性を最大限重視した取り組みに努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんの関係を職員がよく把握しており食事の際のテーブル席の配置などに気をつけている。一人にならない様に職員が間に入り声かけを多くしたり一緒に風船バレーやレクレーションを行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去する場合など家族の方や受け入れ先の病院の方と十分に連絡を取り合い要望があれば家族からの相談にも応じています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族などから本人の望む事や希望する事など聞き意向に沿うように努めている。最近ではひとり暮らしをしていた方の入居が多く、本人の様子を観察してアセスメントを行なっている。	日々の生活から本人の意向や希望をくみ取る様に努めており、家族からの情報や希望を把握して、本人本位のケアに取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や包括センターからの情報でアセスメントを行いこれまでの生活歴や環境を把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人がその人らしく暮らせるように健康面や日常生活などのアセスメントを行なってケアプランに反映させて対応している。変化があればその都度見直しをしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの希望を聞きながらケアプランを作成している。最近では家族と疎遠になっている方が多いため本人を観察しながら本人にとってどのようなようにするのが職員で話しあいケアプランの作成をおこなっている。	介護員の意見を集約し、本人や家族に添った意向でケアプランを作成している。モニタリングは日々記録しており、実情にあったプランの検討を常時行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアを行い個別に介護記録に記入している。何かあった時には職員間でも申し送りノートで情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人または家族から要望があった時にはいつでも対応できるような体制が出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し町内会の方や、民生委員の方などに理解を求めている。ボランティアグループの訪問や消防署の方においしい町内会の方にも参加してもらって救命救急の指導などを受けている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を聞きながらかかりつけ医での医療を受けられるようにしている。他科を受診の際には家族や本人の希望を聞きながら受診先を決めている。	月に2~3回程度、母体病院の医師が医療相談会をホームで開いており、利用者すべての質問に無料で対応している。本人が安心してかかりつけ医に通院できる体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師です。日常の変化など報告して医師からの指示を仰いでいる。月に2～3回程度上田病院からの医師と看護師が健康相談を行なっている。必要に応じて医療機関へ受診している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は介護添書を作成して入院後も安心して同じケアが受けられるようにしている。退院後の生活に支障がないように情報を頂き変わらぬ生活が送れるようにしている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にグループホームにおける見取りに関する指針を読み合わせ確認を行っている。入居後、終末期の覚書を作成、本人や家族が希望する生活が送れるようにしている。実際に看取りを行った事はない。	入所時に書面により説明し、状況に応じた対応に心掛けている。実際に看取りは生じていないが、いつでも本人家族の要望に応えられる様に研修等で取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急時のマニュアルを作成し職員間で共有している。定期的に緊急時のシュミレーションを行なっている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練を行なっている。町内会の方にも参加してもらっています。職員全員が対応できるように配慮しています。	年に2回災害の訓練を地元の皆さんと行っている。2年に一度は夜間想定で取り組んでいる。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴など職員が熟知しその人に合ったケアを行なっている。その人の人格、プライバシーなどを傷つけないように注意している。	個人への尊厳を第一に考え、声掛けや態度、振る舞いに気を配り、ケアに努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思決定の出来ない方が多いので毎日の生活の中でその人を観察して会話を多くするなどして本人の思いなど汲み取れるように理解を深めています。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんを観察しその人の生活のペースを大切に食事なども本人のペースに合わせて食べてもらったり他の日常生活も本人のペースに合わせている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服なども自分で選べる方は少ないので本人と話し合いながら対応している。女性の方はお化粧をするととても喜んでいきます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さん一人一人に合った食事を提供している。本人の嗜好なども把握している。一緒に調理をする人はいないが本人の出来ることをやってもらっている。	明るい雰囲気での食事時間になる様に努めており、その人の持てる力が発揮できるような援助も随時みられ、なごやかなひと時になるように努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の食事量や水分量など把握している。状況に応じてお粥やミキサー食の提供、摂取量の少ない人には栄養補助食品の提供などその人に合わせて対応している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけて口腔ケアを行なっている。全部を自力で行える方はほとんどいないので職員が側について介助している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導その人の排泄状況を把握して個別に誘導している。排泄の仕方が分からなくなった方も多くなっている。少しの失禁なら出来るだけ普通の下着で過ごせるように対応している。	一人ひとりへの把握に基づき、またその状況に合わせた対応で、排泄の自立支援に取り組んでいる。多少の失敗を恐れずにオムツを使用しないケアに取り組んでいる。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認を行っている。その人に合った下剤の調整や、座薬の使用など行なっている。又水分摂取や適度の運動、食事などでも食物繊維の多い寒天や麦ご飯、食前の野菜ジュースの提供なども行なっている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自分で意思決定が出来ない方が多いのでその時どきで本人に聞きながら入浴してもらっている。希望する方もいるので入りたいときに入ってもらっている。	多少の設定はあるが、本人の希望や要望を重視して入浴をしている。母体病院の浴場を利用し、惰性にならない楽しい入浴になるように努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状況に合わせて睡眠を取ってもらっています。日中ウトウトしている方も多いので時間を決めて自室で横になってもらったり、ソファに横になってもらったりしています。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては個別に用法や用量などファイルしてある。服薬は医師の指示を受けて服薬しています。定期的な服薬に関しては誤薬防止の為職員が名前、日付の確認を行っている。その時の症状により医師から指示を受け服薬する事もある。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った楽しみを見つけ行なっています。最近は全員で風船バレーや、カラオケ等も出来るようになってきている。新聞の購読、散歩、ドライブなど行なっている。毎日の階段昇降や足の運動、テーブル拭き、ゴミ捨てなど職員と一緒にこなす事も増えている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿ってでかけることは出来ないのですが天気の良い日に駐車場でお茶を飲んだり近所の公園まで散歩に行ったりしています。季節毎にドライブなどにも出かけています。地域の方の協力を得ての外出は出来ていません。	季節の観賞や買い物等、できるだけ外出の機会を設けているが、それ以外にもホームの前の日当たりのいい駐車場を活用して日光浴や野外食が楽しめる様に工夫している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事を理解している方(2人)は持ってもらっています。理解できない方が多いので事務所で預っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をかけて欲しいと訴えられた事はありません。公衆電話も設置していますので必要に応じて対応しています。手紙のやり取りはありません。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやお風呂場なども広く車椅子の方でも無理なく使用できます。リビングも広く朝方の陽ざしの強い時などはレースのカーテンをかけた窓を開けて風の通りを良くしたりして居心地の良い工夫をしています。また季節感を感じてもらえるように飾付けを行ったり思い出作りをしたりしています。	陽ざしの良い、開放感溢れた居間や季節を感じさせる飾り付け、過度にならない掲示物など、居心地のいい空間作りに、積極的に取り組んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんソファーに座ってお話をしたりカラオケを楽しんだりしています。自分専用の椅子などもあります。畳を敷いていますので自由に座ったり横になる方もいます。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の方と話し合い馴染みのものなど持ち込んでもらっています。日中リビングで過ごす事が多いので自室で過ごす方は2~3名です。本人が住みやすい様にしています。	馴染みの家財や家族の写真、使いやすい配置など、本人に添った工夫で居心地のいい居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階ごとのユニットになっていますので入居さんが自由で安全に過ごせるように職員が目配りしています。日常生活の中でその人が出来ることなど周知して一緒に going しています。		